

(様式2)

令和2 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1591300056		
法人名	社会福祉法人 吉田福祉会		
事業所名	グループホームさわらび		
所在地	新潟県燕市佐渡山4130-1		
自己評価作成日	令和2年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/houkoku/15/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/houkoku/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和3年1月28日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・平成20年4月1日に開設したグループホームさわらびも10年を超え、地域の方々にも名前や役割が浸透してきたと思っています。小規模多機能居宅介護事業所と併設しているため、小規模のご利用からの入所という方も多くいられます。環境をほとんど変えず、なじみの関係の継続が認知症のご利用者にとって一番ではないかと考えています。地域ご利用者が多く、小規模のご利用者との交流にて地域の情報を聞く機会も多くなっています。隣に保育園があり今年度は新型コロナウイルスの影響で交流の機会は持てなかったが、毎年交流の機会を持つことができています。さわらびでは猫を飼っているため、子供たちも朝晩の登園・帰園時には玄関にいる猫に会いに来てくれます。ご利用者もえさやりやおやつ等を猫にやってくれます。日課としている利用者もいられ、役割の一つとして日々の生活の張り合いとなっています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は古くから、高齢者、障害者、子どもそれぞれの施設を多数整備して事業を展開してきている。事業所は集落や国道など幹線道路からも離れた田園地帯に立地しており、併設する小規模多機能型事業所と一体的に運営されている。敷地内には公民館、体育館、保育園が隣接しており、日常的に保育園の園児や保護者が事業所で飼っている猫と触れ合うための訪問が絶えない。公民館や体育館での小さなイベントにも声をかけてもらい交流している。コロナ禍で殆どのイベントが中止となったが、保育園児の玄関先の訪問は変わらず、小規模多機能型事業所の利用者とは隔たりなく毎日交流している。また、公民館での踊りなどの催しには見学に出向くことができた。

入浴設備も個浴槽、機械浴槽などが整備されており、利用者の身体状況に応じて職員が適宜1人又は2人で対応をしている。外出の機会が減り、家族の面会も制限される中で利用者にも少しでも事業所内で楽しんでもらいたいという思いから職員が丸となって毎月レクリエーションを企画し、屋台風にして食事を楽しんだり、ミニ運動会で玉入れやパン食い競争を行った。壁面には、季節の飾りを利用者と一緒に作って飾ってもらっている。2021年1月の大雪の際は、夕方から6時間ほど停電となったため、自家発電を作動させ、ストーブの用意もした。隣接の保育園から暖房と灯りの消えた中にいた園児と職員を事業所に迎え入れ、安心して暖かく過ごしていただくことができた。

利用者と家族のつながりを大切にして家族会も結成されており、草刈りや雪下ろしなどコロナ禍でも手伝いに来ていただいている。事業所では職員全員で毎日感染防止対策に取り組んでいる。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は毎年年度始まりに、職員会議にて相談し決めている。今年度も時に変えることなく継続している。理念が共有できるように、事業所の玄関・フロアにて掲示を行なっている。	事業所の理念は毎年度初めに職員全体で確認して、見直しを含めて検討している。内容は変えずに継続しており、玄関やフロアに掲示している。法人理念も事業所の理念もわかりやすく、ケアのあり方と直結しているため、職員間に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅地から離れているため、日常的な交流は少ない。しかし、地域の行事には積極的に参加し、事業所の敷地も行事の会場に提供を行なっている。また、飼っている猫に会いに保育園の散歩コースに入れてあったり、帰園時には親子で立ち寄ってくれる。	コロナ禍で交流のほとんどが中止となった。その中でも草刈りや、雪下ろしに元利用者の家族が手伝いに来てくれたり、隣の保育園の園児が事業所で飼っている猫を慕って、玄関先までではあるが寄ってくれたり、犬の散歩に近隣の方が立ち寄って利用者と触れ合ったりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の行事に積極的に参加し、日常実施している支援を自然な形で紹介している。地域で認知症サポート養成講座の依頼があれば地域包括支援センターと協力をしない開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回、利用者・ご家族代表、市の福祉課職員、地域包括支援センター職員、地域の自治会長をメンバーに開催している。ご利用者の状況や地域の状況・近隣のいろんな情報を交換しサービスの向上に伊香氏ている。	会議は小規模多機能型事業所と一緒に2か月に1回開催している。コロナ禍で書面開催も余儀なくされたが、7月からは時間を短縮しながらも予定通り行っている。地域の情報を得たり、事業所の対応を報告することで振り返る機会になっている。事業所の機能を理解してもらうことで介護相談も受けられることも周知された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険係担当者が運営推進会議のメンバーであるため、今の現状や相談を行ない事業所だけでは解決できないことを協力していただくような関係を築いている。	市の担当者が運営推進会議に出席しており、コロナ対応策など具体的な対策指導も受けている。地域包括支援センター職員とも日常的にメールでのやり取りを行っており、虐待ケースについても連携して相談体制を確立している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないためマニュアルを作成し、委員会も設置している。定期的に委員会の開催と身体拘束に関する研修を行なっている。身体拘束をしないケアを当たり前として取り組んでいる。	身体拘束に関するマニュアルを整備している。研修はコロナ禍であるため、事業所内で実施したり、WEBでの研修に参加している。センサーマットを使用しているケースについては、家族に十分説明し了解を得て、対応が行動制限にならないよう定期的に職員間で検討会を行っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待予防マニュアルを作成し、事業所内定期的に研修を行ない、介護職員としての責務を周知している。また、具体的な事例を通して学ぶ機会を持っている。	虐待に関するマニュアルを整備している。研修会はコロナ禍であるため、事業所内で実施している。グレーゾーンや不適切ケアなどは、会議で事例を振り返り話し合いを行っている。また、日常的に管理者が個々の職員と会話する時間を作り、職員の様子を把握するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で定期的に研修を行ない、権利擁護について学ぶ機会を持ち意識の向上を図っている。また地域包括支援センターの社会福祉士に説明・講義を依頼したりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご利用者及びご家族に十分説明し、理解・納得を得ている。契約後も必要があればそのつど説明を行なうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、ご利用者から出てくる意見や要望を大切に受け止め可能な限り実践をしている。法人では年1回文章にてご意見を頂き、その内容を検討し運営に反映するように努めている。	法人全体で年1回家族にサービスに関するアンケートを実施しており、結果は事業所にも報告されて、運営に活かされている。また、家族が受診同行等で来訪した時などを捉えて話を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や毎日のミーティングにて、職員の見解や提案について聞く機会を作っている。法人では年1回「自己申告書」を提出してもらい、直接代表に自分の意見・要望を届ける機会も設けており、その意見等に対し管理会議にて検討し法人の運営に反映してもらっている。	コロナ禍で外出と交流が制限される中で、職員の提案により、利用者に少しでも楽しんでいただけるように事業所内でのイベントを企画し、玉入れなどの運動会や屋台風にお好み焼き、焼きそば、チョコバナナ等で食事を楽しんでもらったりした。また、タオル類のリース契約への変更なども職員から負担軽減のために提案され、法人で検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	総合職は人事考課制度を導入しており、本人の役割や勤務態度仕事に取り組む姿勢等を評価している。一般職員には育成制度を行っており、自ら取り組みたいことを面接を行ない決めて、伸ばす工夫を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の各専門部会・他事業所の研修に及び外部研修に参加できるようにしている。自発的な研修はもちろん経験や本人の役割に応じ参加してもらうように努めている。今年度は感染症の流行にてなかなか参加する機会を作れなかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地域での連絡会等にて交換研修や情報交換会を定期的に行ってきた。しかし、今年度は感染症の流行にて情報交換会が開催できなかった。また包括支援センター主催の認知症サポーター養成講座も昨年までは積極的に参加を行っていた。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	こちらからの声掛けをまめに行い、ご本人からの相談や要望を出しやすい雰囲気作り努めている。何か相談があった時には、思いを受け止めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	2か月に1回はご家族にご本人の様子を文章にて報告し、面会時には最近の様子やご家族から要望等が話しやすい雰囲気づくりに努めている。何か相談や要望があった際には、思いを受け止め、速やかに対応や返事ができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者・ご家族が「その時」必要な支援(介護・医療)を検討し必要であれば地域包括支援センターや専門医・他の事業所等の紹介を行なえるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	重度化しているが、本人ができること、やりたいことができるように支援を行なっている。やりたいことを大事にしどうやったらできるのかを相談している。また、季節の行事や食べ物を一緒に作ることで、楽しみながら共同生活での仲間づくりもできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	生活の様子を文章にて伝えるとともに、面会をお願い して家族の絆の継続を目指してきた。今年度なかなか 面会の促しができないが、文章を送る際には写真も同 封している。	特にコロナ禍で面会制限がある中で、家族とのつ ながりを保つために担当職員が生活の様子を記し た書面や写真を定期的に送付している。生活に必 要な物品の補充や受診同行などを家族の役割とし てお願いしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加することで、なじみの人や場所に行く ことができていた。今年は行事がすべて中止になり外出 の機会もほとんど作れなかった。しかし、併設の小規模 のご利用者等も以前から顔なじみの方もいられ、会話の 機会も多くみられている。	2020年度はコロナ禍で面会や外出が制限されて いるが、関わりのあった方とは家族の了解のもとで 面会に来てもらっている。また、一体的に運営して いる小規模多機能型居宅介護の利用者との交流 もあり、馴染みの関係もできて日頃から自由に交流 している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	個性や人間関係に配慮し、一緒に生活しているという 関わりを持ってもらえるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族が気軽に立ち寄ってくださり、ご利用 者と話をしてくれたり、ボランティアで事業所の周りの草 取りをしてくれる。必要に応じ退所後の相談やその後 のサービスの手配や相談も行う事ができる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	一人ひとり、の思いや意向を日々のかかわりの中で気 づいたことなどを会議で持ち寄り、把握に努めている。 困難な場合はご家族等から本人の人の人柄や性格、こだわ り聞きながら把握に努めている。	普段の関わりの中での何気ない会話から情報を把握 している。言葉で表現することが困難な方は、家 族に相談して協力を得たり、本人の表情や行動な どから推察している。把握した情報は毎日のミー ティングで情報共有しつつ、日誌に記録して残し ている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把握 に努めている	アセスメントの中で、本人の生活歴を知り事業所で生活 の中でどうしてもらうのかを相談し、本人らしい生活がで きるように支援できるようにしている。	入居前には自宅を訪問して、それまでの生活環境 を確認している。併設の小規模多機能型居宅介護 事業所を利用してから入居した方については、普 段から送迎等で自宅を訪問して生活状況を把握し ているため円滑に移行できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が持っている力、やりたいことができるように日々の生活の変化を見逃さず、スタッフみんなで共有を図っている。また必要時には、介護計画に反映し実行している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限り本人の思いを聞き出し、ご家族と一緒に担当者会議にて支援内容を決めている。日々変化していく状態の中で変化を見逃さず、必要な時には支援の変更を行ないながら本人らしい生活ができるよう努めている。	担当者会議に本人や家族が参加し、介護計画の内容について検討している。モニタリングとして月1回、担当職員が所定の様式に記入して情報共有している。モニタリングの様式は新しく見直したものであり、それにより支援の実践状況をより把握できるようになった。また、状況変化があれば随時計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は事実やケアの気づきを具体的に書くように努めている。情報共有、計画の見直しに生かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の小規模多機能居宅介護との交流を活かし、職員や小規模の機能を共有、柔軟な支援を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する北保育所や公民館とは良い関係ができています。地域の人の訪問や慰問も見られていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の協力が密に行われ、関係は良好である。個々にかかりつけ医もいて、相談も行われている。終末期の支援も連携している訪問看護の協力で行える体制も整っている。	利用者はそれぞれのかかりつけ医を継続しているが、半数の方は事業所の協力医の訪問診療を受けている。受診の際は原則家族が同行しているが、状況に応じて職員が同行している。訪問看護が週1回来訪し、受診等の助言や夜間の相談にも対応してもらっている。また、薬局とも連携して利用者個々の内服薬等をセットしてもらったり、残薬等の管理も行ってもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は法人内の訪問看護ステーションと委託契約しており、定期的に健康観察と必要なアドバイス、緊急時の時の対応等協力が得られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時等は病院側と連絡が密に行われている。今年に入り病院への面会やカンファレンスができにくくなったが、密に家族や病院側とやり取りができる関係づくりができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には、終末期についての意向を確認している。答えが出せない時には、考えてもらい時間を作っている。事業所で出来ることの伝えながら本人の最後をどうするかを一緒に考えて答えを出してもらおう。家族が後悔しないように相談を行なっている。	重度化した場合の対応指針や同意書が整備されており、入居時に説明をしている。昨年は家族の意向を受けて、かかりつけ医と訪問看護ステーションの協力連携体制のもと、年末に看取りを行った。看取り後は職員の振り返りを行い、次に向けて学びを深めることができた。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急救命講習を定期的に通っている。また、急変時や事故発生時の対応がマニュアル化されており、折に触れ確認や研修を行なっている。	職員全員が救急救命講習を受講し、3年ごとに再度受講する仕組みとなっている。各種マニュアルも整備されフローチャート化して見やすくファイルされている。会議の中でも定期的に対応方法について研修を行っている。また、訪問看護ステーションの協力を得て感染症や食中毒などの対応を指導してもらっている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画にそって、避難訓練や消防設備点検を行なっている。今年度は地域の協力は感染症流行のため得ず。	2020年度はコロナ禍でもあるため、事業所内での避難訓練にとどまっているが、今までは地域の防災訓練に参加もしていた。食料の備蓄などは通常のストックを増やす形で確保している。2021年1月初旬の大雪で停電となったが、新たに整備した発電機や蓄電器を活用して乗り切ることができた。	感染症の流行もあり、災害対策の中で地域の協力を得ることはできていないが、今後は自治会をはじめとした地域の協力を得る形での災害対応の仕組みを構築し、どのような災害が発生しても事業所の安全が確保できるよう検討することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助を行なう際には声をかけ、本人の承諾を得ている。一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけにも工夫を行なっている。	毎年、接遇については法人本部で研修を行い、事業所会議で伝達講習を行っている。常に相手のペースに合わせて行くことを心掛け、不十分な対応が見られた時はミーティングの際に話題にし、職員間で注意し合うようにしている。記録は利用者を見守りながら空いている空間で行っており、記録類はカギのかかる所に保管をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自分の思いや希望を表現しやすいような雰囲気づくりや声掛けを心がけている。自分で決めたり、納得しながら納得しながら暮らすことができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自身で過ごし方を決定できる方はそのように支援しているが、重度化によりできない方が増えてきた。午前に入浴、午後は静養という方がいられる。ご本人の様子や今までの生活を考えながら、支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室等なじみのところに通っている方もいるが、状態によって行くことができない方には訪問理美容利用している。身だしなみも自分の好みで入浴時等準備する方もいる。なかなか難しい方も増えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の時や誕生日の時には好きなものや季節のものが食べられるように、普段の会話の中から聞き取り献立を立てている。後かたづけ等は小規模の方と一緒にしている。	食材は生協の宅配を利用したり、地元の八百屋から定期的に配達してもらっている。朝は調理済み食材を活用し、昼と夕食は主菜を配達してもらい、ご飯とみそ汁、副菜を事業所で作っている。野菜の皮むき、下膳、食器の洗浄・食器拭きなどできるところは利用者に協力してもらっている。おやつ作りにも力を入れており、ちまきやどら焼きを作ったり、外食が今年は出来ないため誕生日などでは食べたいものを提供して楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ない時や、主治医からの制限の指示が出た時にはご家族や法人内の管理栄養士や看護師と相談し捕食や食事形態等を決めている。基本は家庭と同様の姿を持つようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、本人の状態に合わせた形で口腔ケアを行なっている。自分で難しい人は、介助をさせていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は本人の状態に合わせて行なっている。トイレでの排泄を基本とし、できる限り自立した排泄を目指している。	日中はできるだけトイレでの排泄を心掛けており、それぞれの排泄パターンを把握して声掛けや誘導を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりがちだが、本人・家族と相談し乳酸菌飲料を飲んで頂いたり、栄養士が立てた献立を参考にバランスの良い食事が提供できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	小規模多機能施設も併設のため、午前中の中入浴になり日にもある程度決めさせていただいている。しかし、希望があれば、いつでも入浴ができるように努めている。本人の状態に合わせた浴槽を選ぶことができ最後の最後まで入浴が可能になっている。	週2～3回の入浴を原則にしているが、希望があればいつでも入浴できるように努めている。浴槽は広く、個浴槽、機械浴槽、特殊浴槽と3種類整備されており、利用者の身体状況に応じて、職員2人で対応するなど配慮している。季節ごとにゆず湯や、菖蒲湯、入浴剤などで楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者それぞれの生活習慣を尊重し、安心・安全・自由に過ごせるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者一人一人のファイルには内服情報が綴じてあり、職員はいつでも確認ができる。居宅療養管理指導を導入しており、主治医・調剤・事業所にて本人の情報を共有している。内服のセットもすべて行っていただいで間違いのないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者一人ひとりひとりが、できること楽しみをアセスメントにて見つけて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じてもらえるような外出や、地域の行事には積極的に参加している。ご家族にも手伝ってもらったり、一緒に行事に参加してもらっていたが今年度は感染症の流行から外出は控えている。	コロナ禍となり、昨年まで出かけていた外食や地域のお祭り、季節ごとのドライブや家族交流会などもほとんどが中止せざるを得なくなった。それでも隣の公民館で開催される踊りを見に出かけたり、少人数で気分転換のドライブなどに出かけている。また、家族にも協力を依頼して自宅に行くこともできた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の嗜好品の購入や祭りや行事での外出時には本人のお金を持参に買い物を楽しむ機会を設けていたが、今年度は外出の機会もなくお金を使う機会もほとんどないのが現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があればいつでも対応が可能になっている。母の日等で本人に贈り物が届いた際には、本人から送り主にお礼の電話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	すっきりと使いやすい空間づくりを行なうように心がけている。朝にはカーテンを開け、太陽光を室内入れるようにしている。フロアの壁や玄関・本院のお部屋には、ご利用の作品や写真を飾り穏やかに過ごせる工夫をしている。	リビングや廊下の壁に季節ごとに飾りを利用者と一緒に作って飾っている。それらの飾りは希望があればそのまま居室に飾ったりしている。コロナ禍では毎日夜間帯に手すりや椅子、テーブルなど利用者が普段触れるところを職員が消毒しており、温度や湿度にも気を配り定期的に確認している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小規模馴染みのご利用者と一緒に自由に談笑したり、グループホームのフロアにてテレビを見たりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の部屋は1部屋、あとはフローリングの部屋になっている。これまでの生活の継続のように、自分の好きなものを持参して自分らしい部屋づくりをしていただいている。家族と一緒に掃除や壁面を作成している方もいられる。	ベッド以外は自宅で使い慣れたものを持ち込んでもらっている。テーブルや椅子、ダンスなどそれぞれが必要なものを持ち込んでいる。掃除はリネン交換時に職員が行っており、入りの取っ手や手すりなど良く触れるところは毎日消毒している。また、エアコンの温度調節も職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋の入り口には大きめに表札があり、トイレや浴室のドアにも大きめの字で表札がある。一目見てわかるようにしている。*部屋の前の表札は、希望されない方には取り付けず。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				